

## 常井洋治の公約が大きく実現。

## 皆様のご支援に感謝!!

▶ 県議会財政再建等調査特別委員会で論陣を張る常井議員。県民生活の安定のためには、財政基盤をしっかりとりたい。そのために、「財政再建の鬼」にもなる覚悟で臨んでいる。右端から、西條副委員長、石川委員長(19年7月)



## 県立中央病院の診療体制強化へ 県立友部病院を全面改築へ

## 44億円ーがん・救急医療充実 60億円ー平成23年開院予定

茨城県議会の19年第3回定例会において、地元笠間市にある県立2病院に対し、合計104億円を集中投資することが議決されました。

診療機能を強化し、患者数の増による収益の増加や医療従事者の確保を図り、県立病院としての役割を果たしながら経営の

健全化を推進しようとするものです。

常井議員が主張してきた県立中央病院の機能充実に向けて、大きく動き出しました。また、県立友部病院の全面改築の公約が実現することになりました。

(詳細は、3ページをご覧ください。)

## 燃える郷土愛。全力投球!!

今回の県議会で、前記のとおり、私の地元笠間市にある県立中央病院及び県立友部病院の診療体制強化のために、104億円余の予算化が決められました。いずれも、私が初当選以来のライフワークとして主張してきたものです。県では、来年度(20年度)予算で、どうしても250億円財源が不足するため、県議会では、財政再建等調査特別委員会を設置して、聖域無き歳出削減を議論しているところです。そういう最中に、このような予算措置がされたことは、極めて異例で、画期的なことです。

永年の私の悲願に理解を示して頂いた、橋本知事はじめ関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。同時に、私にいつも熱い声援をくださっている方々のお陰と深く感謝申し上げます。あわせて、古田病院事業管理者、永井・中央、

土井・友部両院長はじめ関係職員の皆様の経営改革への熱意が高く評価されたものであり、改めて敬意を表します。

私は、両病院ともに、「地域の宝物」だと思っています。特に中央病院は、経営健全化を進めて民営化を回避し、何としても「県立病院」として存続させたいと願っています。今後とも、産科の早期再開、小児科の強化、救命救急センターの設置など更なる充実を求めてまいります。

私は、これからも、皆様と一緒に、地元住民はもとより全県民の安心のよりどころとして、愛される病院にしていきたいと考えています。

引き続き、皆様のご支援をお願い申し上げます。

茨城県議会議員 常井洋治

# 一緒に創ろう! ふるさとの輝く新時代

平成19年第3回定例県議会を終えて

第3回定例県議会は、9月5日から27日までの23日間開かれ、補正予算や条例など27議案を可決しました。常井議員は、総務企画委員会、財政再建等調査特別委員会で活発な質疑と質問を行いました。

なお、第4回定例会は、12月5日から19日までの15日間の日程で開催される予定です。

## 平成19年度9月一般会計補正予算を可決

◎補正予算 **49億28百万円**  
 ◎補正後 **1兆652億9百万円**

### 補正予算の主な事業—県立病院関係を除く

1. J-PARC(ジェイパーク)に関する産学官共同研究施設の整備事業……………13百万円
2. 国庫補助公共事業の追加(災害復旧、道路、港湾等)……………3,964百万円
3. 県単独公共事業の追加(生活密着型道路整備等)……………772百万円
4. 石岡・小美玉地区ETC専用インターチェンジ社会実験(県単独公共事業に含む)……………410百万円(常磐道と国道355号との交差点部分—両市行政界付近)
5. 茨城空港ターミナルビル整備事業……………150百万円(県開発公社に27億円を無利子で貸し付け、30年償還)
6. ヤングママ子育て応援事業…2百万円(出産・育児支援、児童虐待防止のため医療機関との連携)



▶北関東道は、友部～笠間IC間が11月14日に開通する。笠間IC関連の土浦笠間線福原バイパスの開通式にて(19年10月)

## ●県議会の論戦から(要旨)

中央病院は、政策医療と総合診療機能の両立を目指す

### K議員(M党代表質問)

県立病院は、全県民を対象とした診療を行う義務がある。しかし、中央病院は、患者数全体のうち86%は、笠間市と隣接市町から来ていて、地域病院の様相を呈している。県北では、中央病院の存在すら知らない人が多い。同病院は、高度、先進、特殊、救急医療などの政策医療を徹底的に充実させることが県民全ての病院になる道だ。それによって、県央地域の総合診療機能が低下するならば、別途民間の総合病院を誘致すべきだ。

### 古田病院事業管理者

中央病院は、今後全県民を対象とした診療を行いつつ、政策医療であるがん医療や循環器医療などの高度・先進的医療へ積極的に取り組んでいく。

また、全県的に十分でない救急医療体制の充実などの医療ニーズに対して、他の医療機関と連携しつつ、その中心にあってバランス良く応えられる質の高い総合診療体制の構築を目指すことが責務であると考えている。

## 着実に進む笠間市内の道路・河川整備

常井議員から水戸土木事務所(須藤修一所長)への要望(H19.6.18)の結果、実施方向が示されたものの中から一部をお知らせします。

1. 都市計画道路宿大沢線の早期開通(残り640m)…**21年度内の完成に努力**。〈友部小の隣りを通る環状道路〉
2. 合併支援道路の宍戸小～大沢跨線橋(900m)…笠間市事業で、19年度から用地買収(旧畜産試験場内は県事業で、現道拡幅予定)。
3. 友部駅北口付近の県道杉崎友部線整備…西側を、県が19年度用地買収。
4. 県道大洗友部線、(旧名)総合流通センター～茨城中央工業団地の開通…用地買収終結、まもなく工事開始。
5. 県道友部内原線(中央病院前通り)、内原カントリー前～岩間街道までの拡幅…61mは実施済み。用地買収済み箇所を順次工事実施。
6. 国道355号石岡岩間バイパスの早期開通…用地未買収1箇所の土地収用(強制執行)を検討。

7. 県道上吉影岩間線、<sup>くぬぎ</sup> 栲山～大笹の拡幅改良…19年度も前年に続き150m実施。
8. 県道水戸岩間線(岩間街道)、土師十字路付近の改良…桜川の桜井橋への歩道橋設置の下部工実施。
9. 涸沼川の河川内・堤防の竹木の伐採、草刈り…湯崎・住吉・仁古田・安居地区で順次実施。
10. 涸沼前川の河床しゅんせつと堤防崩壊箇所の改修…土砂たい積状況を見て小原・市原地区で継続実施。
11. 随光寺川・桜川(上郷・下郷地区)の改修、しゅんせつ…継続して実施。



12. 本戸地区南指原川のたい積土砂の除去…19年度から実施。

▶水戸土木事務所安藤課長らと、本戸地区の河川を現地調査。(19年7月)

## 県立中央病院一こう、充実します

- 概算事業費：44億14百万円（内訳一施設整備：2,131百万円、設備整備：2,283百万円）
  - 財源は、8年前の東海村JCO臨界事故の補償金として、国から交付された資金を積み立てた「原子力安全等推進基金」92億円の約半分を充当する。
- 施設整備（平成21年度稼働を目指して、次の施設を整備する。）

### (1) 放射線治療センター（リニアック増設 現在1台→2台）

- がん治療で急激に増加している放射線治療患者に対応するため、リニアック1台（約5億円）を増設する。

リニアック延べ患者数実績：

14年度6,344件→18年度11,709件

### (2) 化学療法センター（現在6床→20床）

- がんの化学療法は、放射線治療との併用により治療効果が期待できるとともに、抗がん剤治療のニーズが高まっていることから、化学療法部門の強化を図る。

### (3) 人工透析センター（現在11床→20床）

- 腎機能が低下した救急患者や糖尿病等の複数の合併症を持つ患者に対する専門的透析治療を提供するため、人工透析部門を強化する。地震などの災害で、倒壊物の下敷きになって腎機能が低下した患者（クラッシュ症候群）も受け入れる。



◀中央病院では、救急患者受け入れのため、処置室を増設工事中。

### 3. 設備の整備

- 心臓用超音波診断装置、手術室放射線装置等を順次整備する。

- 救急患者受け入れ体制を強化するため、現在進めている救急処置室の改修にあわせて救急医療機器を整備する。

### 4. その他診療機能強化への動き

#### (1) 救急処置室を増設中（現在1部屋→2部屋）

- 救急車搬送件数の増加に対応するため、救急処置室を増設して、患者の受け入れ体制を強化する。これまで以上に、安心安全でかつ十分な救急病院を目指す。
- 18年度救急車搬送件数は約2,500件、救急患者総数は約11,500人と、件数は、この7年間で倍増している。
- 19年4月から、救急医療専門医師を東大病院から受け入れて対応を強化している。

### (2) 集中治療室（ICU）を稼働

- 19年7月から、がんセンター内にICUを稼働した。心筋梗塞や外科系大手術後の患者の容態にあわせた集中治療を行っている。

### (3) 循環器内科医を増員予定

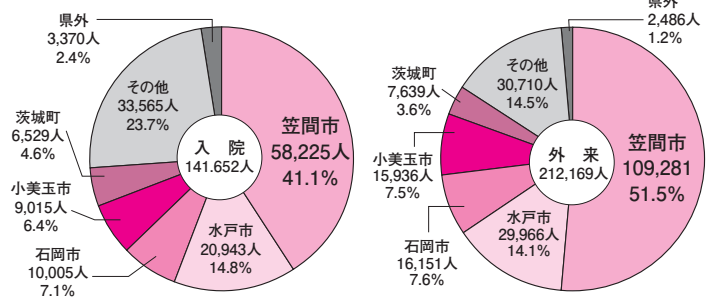
- まもなく現在3名体制から5～6名体制に増強される。
- 他県に比して死亡率が高い急性心筋梗塞などの患者に、24時間365日体制で緊急カテーテル検査・治療を行える体制をつくり、救命率向上を目指す。

### (4) 産科の早期再開、小児科の充実

- 現在あらゆる手段を使い、医師確保に鋭意努力中。病院局では、産科の再開時期は明言できないとしている。常井議員は、一貫して、早期再開を強く求め続けている。

### 5. 中央病院の利用状況（平成18年度実績）

1日平均患者数：入院389人、外来869人



## 県立友部病院一こう、整備します

### 1. 全面改築の整備計画

- 整備場所：現在地（笠間市旭町）
- 想定病床数：260～270床（現稼働：284床）
- 概算事業費：約60億円
- 開院時期：平成23年を予定

### 2. その他

- 19年4月から、精神科救急患者(※)の受け入れをしている。

※警察官から連絡のあった、自傷他害のおそれのある措置入院患者を24時間365日受け入れて、県立病院としての役割を果たしている。

- 小学校高学年からの患者が、児童思春期病棟(※)に入院（現在31床）している。

※平成14年に、常井議員の主張を受け、児童思春期専用病棟「つくし」の開設が実現した。

- 友部病院は、今後、「うつ」や心の病にある県民のカウンセリングなどに、新しい対応が期待される。



◀筑波海軍航空隊の本拠地であった、築73年になる友部病院正面玄関。

常井議員は、史跡として、同航空隊の建物や号令台の一部保存を求めています。

# 財政再建等調査特別委員会

(H19.9.4) (要旨)

## ● 富裕市町村への県貸付金のあり方を問う

**常井委員** 県は、来年度250億円の財源不足額の財源手当をしないと予算を組めない状況にある。県は、市町村振興資金として、43市町村に約180億円を貸し付けている。その中には、財政力が豊かな富裕団体として19年度地方交付税が交付されない8市町村に対しても、57億円の貸し付けがある。その貸付金を、繰り上げ償還してもらえば、相当な財源手当になるはずだ。

1兆7000億円もの借金を抱えた親父(県)が、羽振りの良かった昔の親分肌のままの感覚で、今では立派に自立して裕福になった友人(富裕市町村)にお人好しにもずっと安い金利で金を貸している。しかも、自分の家族(県職員)には、ひもじい思いをさせている(一般職員・教職員・警察職員に給与カットを実施して、年間105億円を捻出している)。県が自分の分(ぶ)をわかまえば、そういう余裕はないはずだ。

県財政の窮状をよく市町村に説明すれば、理解を得られるのではないかと。

**上月総務部長** 県の状況が苦しいからといって、市町村に一気に繰り上げ償還を求めるのはどうかということもあるが、来年度からできる限り応じて頂けるようお願いしていきたい。

参考：交付税不交付団体への貸付額：トップは、つくば市の約22億円。

※笠間市への貸付金は、約7億円。

## 旧畜産試験場跡地利活用 — 笠間市民との意見交換会を実施 —

常井洋治議員がずっと求めてきた意見交換会が、やっと実施されます。役所・役人が計画案をつくる前から、住民の意見を聴き、参考にしながら計画を策定しようとする、同議員の提案に基づく新しい試みです。

皆さんこそってご参加のうえ、いろいろなアイデアを出してください。

- ①開催期日 19年11月13日(火) 午後7時から  
(茨城県民の日)
- ②開催場所 笠間市友部公民館大ホール
- ③対象者 跡地利活用に関心のある方は、どなたでも自由に参加できます。
- ④主催者 茨城県 (協力：笠間市)
- ⑤問い合わせ 茨城県企画部地域計画課  
(高橋・篠原)  
TEL029-301-2730



▶ 平区では、県のコミュニティ助成金で、太鼓・はっぴなどを揃え、初めての盆踊りを実施した。子どもたちは、とても嬉しそうだった。(19年8月)



▲現在の県立友部病院は、筑波海軍航空隊の跡地である。同隊員55人が沖縄戦に特攻出撃し、散華した。友部公民館で貴重な資料が展示された。(19年8月)



▲県スポーツ少年団野球大会で、元気に選手宣誓。笠間市民球場にて。(19年7月)



▶ 第58回県消防ポンプ操法競技県央地区大会には、笠間市の消防団から4チームが出場した。全選手が、猛暑の真夏も練習を重ねてきた成果を披露した。(19年10月)



▲大網(だいあみ)区の敬老会は、いつも女性の皆さんの心のごもった手料理でもてなしている。和気あいあとした雰囲気の中で、お年寄り、なごやかなひと時を過ごした。(19年9月)



▲お母さんとの競技も楽しんだ運動会。子どもたちにいい思い出として、残ることでしょう。常井議員は、各小中学校をまわって、応援していた。(19年9月)



▶ 琴古流尺八「竹韻社」の発表会で、常井議員が顧問のあいさつ。公務のため、稽古も休みがちで残念がる。後列左端は、初見宗郷社主。(19年9月)

## 「いばらき Kids Clubカード」でお買い物、お食事がお得に!

1. 県の子育て家庭優待制度が、10月21日から始まります。
2. 18歳未満の子どものいる家庭(妊娠中の方を含む)が対象。
3. 「いばらき Kids Clubカード」を提示すると、お買い物、お食事などに割引などの特典あり。特典の内容は、県内の協賛店舗が独自に設定。
4. カードは、笠間市子ども福祉課で受け取れます。
5. 詳しくは、<http://www.kids.pref.ibaraki.jp> (携帯でも可)